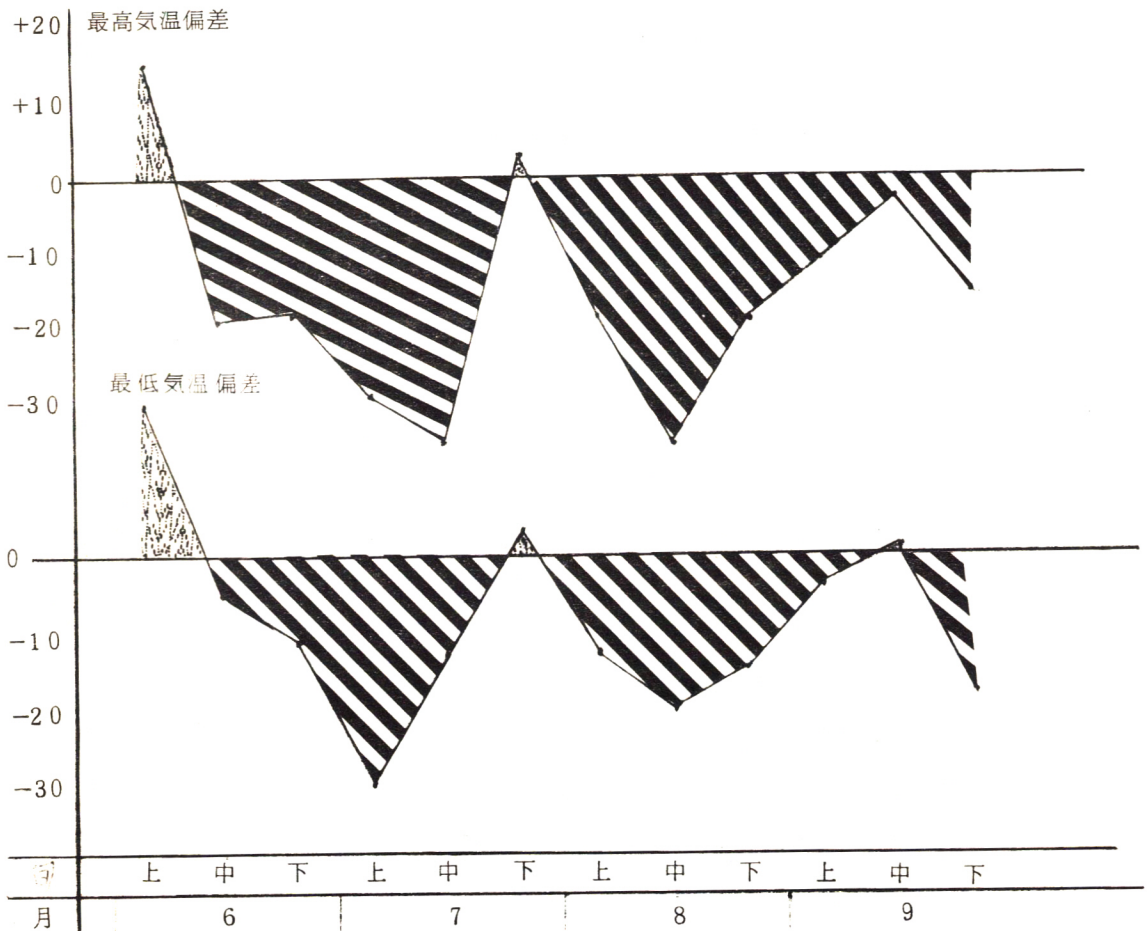


1976年6月から8月にかけての低温と日照不足

夏の冷害

全地球的な寒冷化傾向がつづいている中で、夏期の冷害は、早場米を中心とした稲作に大きな被害をおよぼした。6月～9月の気温偏差(図8)をみると、6月中旬～7月中旬及び8月～9月一ぱいにかけて低温傾向がつづき、稲の出穂と結実の頃の7月上旬、8月中旬に平年にくらべ-3.5℃の低温がみられた。

また、日照時数も少なく(表1)6～9月の日照率は20～30%前後で、この日照率は平年値とくらべて6月が67%、7月81%、8月(67%)と平年の $\frac{2}{3}$ しか日照がなかった。このため市内の稲作地、特に早生地帯と高地(中里地区)に結実しない所が出て減収3割以上地帯は、市内で70ha 全面積の15%以上にも及んだ。



水戸の日照率

月	6	7	8	9
日照率 (%)	21.9	29.3	31.0	38.1